

[様式14]

(対象事業:ミュージアムを核とした地域の人材・組織の育成・連携・活用に係わる事業)

事業名:成田・栄・房総のむら  
ミュージアムタウン事業

事業者名:成田・栄・房総のむら  
ミュージアムタウン実行委員会

連携事業館名:千葉県立房総のむら・成田市中央  
公民館・ふれあいプラザさかえ・  
栄町立酒直小学校

住所:千葉県印旛郡栄町竜角寺1028

TEL:0476-95-3333

FAX:0476-95-3330

HPアドレス:www.chiba-muse.or.jp/MURA/



千葉県立房総のむら

#### ①施設概要

千葉県立房総のむらに事務局をおき、成田市(成田市中央公民館)と印旛郡栄町(ふれあいプラザさかえ)の生涯学習施設・地元学校(酒直小学校)・地域ふれあい推進委員・住民活動支援センター・観光協会の代表者から構成した実行委員会により実施しました。

#### ②事業の意図目的

博物館・公民館・学校・住民が一緒になって、房総のむらと周辺地域の文化資源を再発見し、多くの人に伝えることにより、連携を深め、地域の活性化を図ることを目指しました。

#### ③事業概要

博物館や公民館、市民サークルと連携しながら、房総のむらと周辺地域を対象とするシニアガイドを募集し、研修やガイド・ウォークラリーイベント等を検討・試行・実施しました。併せて、イラストマップやガイド資料等を作成・配付し、より多くの方に地域再発見を促しました。

また小学校の総合的な学習の時間で、地域の調べ学習やガイド活動を行い、子どもたちにも地域再発見を促すとともに、地域への事業の浸透を図りました。

さらにガイド交流事業として、シニアガイドと北総地域の他の町ガイドとの交流研修会を行うとともに、房総のむらに北総の町情報コーナーを作り、町ガイドの広報に努めました。

最後に全体発表会を行い、より多くの方に地域再発見を促すとともに、住民交流を行いました。

#### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 (イラストマップ・ガイド資料・チラシ)  
作成した報告書等 (CD-R版報告書)

#### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 639人

内 訳 シニアガイド事業163名、ジュニアガイド事業261名  
ガイド交流事業29名、ガイド・全体発表会186名

## (1) 事業の実施状況について

### ①シニアガイド事業

シニアガイドを募集し、房総のむら周辺の竜角寺古墳群や龍角寺、古道沿いの石造物、伝説ゆかりの地などを5回巡見しながら研修し、最後に講義でまとめを行いました。ガイドには、郷土史に興味をお持ちの方を中心に、地元の観光協会や市民グループの方など様々な方にご参加いただきました。

伝説をゆかりの地で聞くウォークラリーイベントやガイドイベントでも、地元の「お話しの会」など市民グループの方にご協力いただき、連携を拡げることができました。

この他、地元住民を対象としたウォーキングイベント等の際にガイドをし、地元への浸透を図りました。



シニアガイド研修のようす



ウォークラリーイベントのようす



自然観察のようす

### ②ジュニアガイド事業

小学校の総合的な学習の時間で、4年生が地元の歴史や伝説調べを、5年生が地元の自然調べを連携して行いました。講師が中心となって小学校の先生と協力して、巡見しながら調べ学習を行うとともに、市民グループや地元の方に協力いただきながら、子どもたちが地元調べを行いました。

発表会では、保護者や地元の方を学校に招き、その成果を発表しました。4年生は、地元の伝説を紙芝居や劇、人形劇にして発表しました。5年生は大きな地図上で実際にガイドをするように、大人や友達にクイズをだしたり、写真や標本を見せながら、地元の自然を紹介しました。また、ラジオ放送局からも取材があり、子ども達により全国の多くの方に地元の伝説を紹介することができました。

また、子どもたちが家族や地元の方から聞き取り調査をしたことにより、地元の方が一緒に地元調べをする波及効果がみられました。

また今回、博物館等と地元小学校4・5年生が連携して、地元調べ学習をしたことにより、すで



発表会での自然観察案内のようす



ラジオで伝説を紹介しているようす



博物館と小学校が連携して実施してきた6年生の歴史学習（土器作り・古代米作り）と一体化させ、総合的な学習の時間を4～6年生にかけて継続的に博物館と連携して実施するプログラムを作ることができました。

### ③ガイド交流事業

印西市木下の町ガイドと佐倉市佐倉の町ガイドの方に講師をお願いして、シニアガイドの交流研修会を行いました。房総のむら周辺地域と関わり深い木下や佐倉について、実際にガイドしていただくとともに、木下の町ガイドの方には木下貝層の講義もしていただきました。ガイド技術や知識の習得とともに、より広い地域の歴史・文化を考える良い機会となりました。

また、地域振興を目指すボランティアグループ同士の交流を図ることができ、ともに刺激を受け有意義でした。

また佐倉や木下、成田、佐原などの情報を集め、町ガイドが活躍されている歴史ある町を紹介するコーナーを房総のむらに設置しました。



木下での第1回交流研修会



佐倉での第2回交流研修会

### ④ガイド・全体発表会

シニアガイド事業の成果発表として、2日に分けて合計4回、2コースのガイドツアーを実施しました。「七不思議伝説をめぐるガイドツアー」と題し、シニアガイドが参加者に伝説の地をご案内しました。

全体発表会は、これまでに発見した周辺の文化資源を紹介するとともに、語りべの会の檜垣順子さんに地元の伝説の語りをしていただきました。参加された地元の方も、歴史や自然・文化豊かな地域であることを再発見されていました。また、檜垣さんの語りも好評で、特に悲しい地元の伝説の語りは、シニアガイドの良い研修ともなりました。



ガイドツアーのようす



全体発表会のようす

## (2) 地域との連携について

### ①実行委員会

千葉県立房総のむらにとって今回が、成田市（成田中央公民館）と印旛郡栄町（ふれあいプラザさかえ）の生涯学習施設との初めての協働事業となりました。地域再発見的な事業はこれまでも各施設ごとに実施した経験はありまし

たが、いずれも単発的でした。今回は各施設の特徴を生かし合い、半年間継続することができ、さらに来年度も継続することになりました。具体的には、専門性のネットワークに強い博物館と、地域のネットワークに強い公民館の特徴を生かすことができ、内容的にも地域への浸透度も高い成果があがりました。

また、地元小学校・地域推進ふれあい推進員・住民活動支援センター・観光協会との連携により、地域への事業の浸透が図られました。

## ②市民グループ・役場との連携

地元の生涯学習施設・住民活動支援センターとの連携をきっかけに、まちづくりや社会教育などの市民サークルや、役場の多くの部署に、研修会・ガイドの実施やイラストマップ・ガイド資料の作成に多大な協力をいただくことができました。また一方で地元役場や市民サークルが主催するウォーキングイベントでガイドを実施するなどの連携も図ることができました。

市民サークルや役場の各部署もそれぞれ単独の活動から、連携した活動を指向していた状況にあったので、積極的に連携を図ることができました。

## (3) 成果物について

### ①キャラクターのイラスト

連携事業のシンボルとして、また地域への事業の浸透を図るためにイラストを作り、イラストマップ・チラシなどや広報、名札などに利用しました。



昔の旅人  
明治時代の迅速測図「松崎村  
・二宮神社挿絵」に描かれた  
旅人をイラスト化



龍  
印旛沼伝説の龍をイラスト化



現代のウォーキングする人  
房総のむら周辺をウォーキングする三世代の家族をイラスト化

### ②事業広報チラシ (A4版 1万6千部)

事業紹介とボランティアガイド募集のチラシを作成・配布しました。

### ③イラストマップ (展開A2版DM折り 2万部)

成田から房総のむら、安食にかけての昔と今の地図、安食・房総のむら周辺のイラストマップを掲載した地図を作成・配布しました。

### ④ガイド資料 (8種類 各5千部)

ガイドの際に利用する資料を8種類作成・配布しました。



- a. 「龍角寺・房総のむらー古代マップ・あんないー」
- b. 「龍角寺・房総のむらー江戸明治マップ・あんないー」
- c. 「上福田・大竹マップ・あんない」
- d. 「安食マップ・あんない」
- e. 「龍角寺伝説マップ・龍角寺の七不思議伝説」
- f. 「房総のむら花マップ・花図鑑ー春ー」
- g. 「房総のむら花マップ・花図鑑ー夏ー」
- h. 「房総のむら花マップ・花図鑑ー秋・冬ー」

#### ⑤クリアファイル（千部）

現在の龍角寺・房総のむらマップをクリアファイルとして作成しました。

ガイド資料a h を利用する際に、昔と現在の地図を比較しやすい学習教材として作成・配布しました。

#### ⑥CD-R版報告書（250部）

事業報告と成果物、実施状況写真をまとめた報告書を作成・配布しました。

### （4）参加者の反応

「近くに住んでいても、その存在自体や、その貴重さを全く知らない事がとても多かった。参加して地元の事が多く知れて、とても良かった」という声をシニアガイドの方から多くいただきました。こういった反応は、地元で生まれ育った方も、ニュータウンに引っ越してこられた方も共通していました。

参加した子どもたちからも、「これまで知らなかった植物や伝説、歴史がおもしろくなってきた。また調べてみたい。」という声が多く聞かれました。参加いただいた保護者の方や・小学校先生からも「地元のことが知れて良かった。」という多くの声をいただきました。

また一方で、今後の課題（事業の継続の重要性や、地元へのさらなる周知の必要性など）についても、多くのご意見をいただきました。そこで来年度は、市民グループとの協力を継続的なものにするため、協力者会議を定期的に設けるなどして、課題の改善に努める予定です。

### （5）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

地元の生涯学習施設・役場・市民グループとのネットワークを作ることができ、本事業以外の行事等を実施する上でも、連携がとれるようになり、施設の運営上も良い波及効果がありました。来年度からは、新たに地元の県立高校も実行委員会に加わることになり、連携の輪が広がる効果もありました。

また、地元小学校教諭と学芸員が恒常的に交流するようになり、博物館の他の教育プログラムにも良い波及効果が今後期待されます。

このように本事業では、博物館が積極的に地元に入り込み、地元から博物館を身近に感じていただくことができ、地域連携の大きな成果があがりました。

(6) 新聞記事等  
○新聞記事



千葉日報 平成20年1月7日 16面

○雑誌記事



京葉銀行情報誌「ゆとり」2007 秋冬号

その他 ミニコミ誌 成田エリア新聞 平成20年1月27日  
成田市広報 平成20年3月1日

○ラジオ

TBSラジオ「土曜ワイドラジオTOKYO～永六輔その新世界」  
平成20年2月6日9時30分～12時10分(この間に3回計20分程度放送)